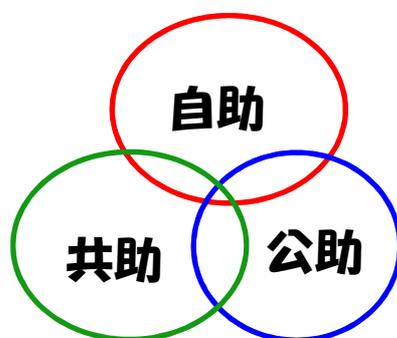


安城市校區別地震防災カルテ

学区：祥南小学校区



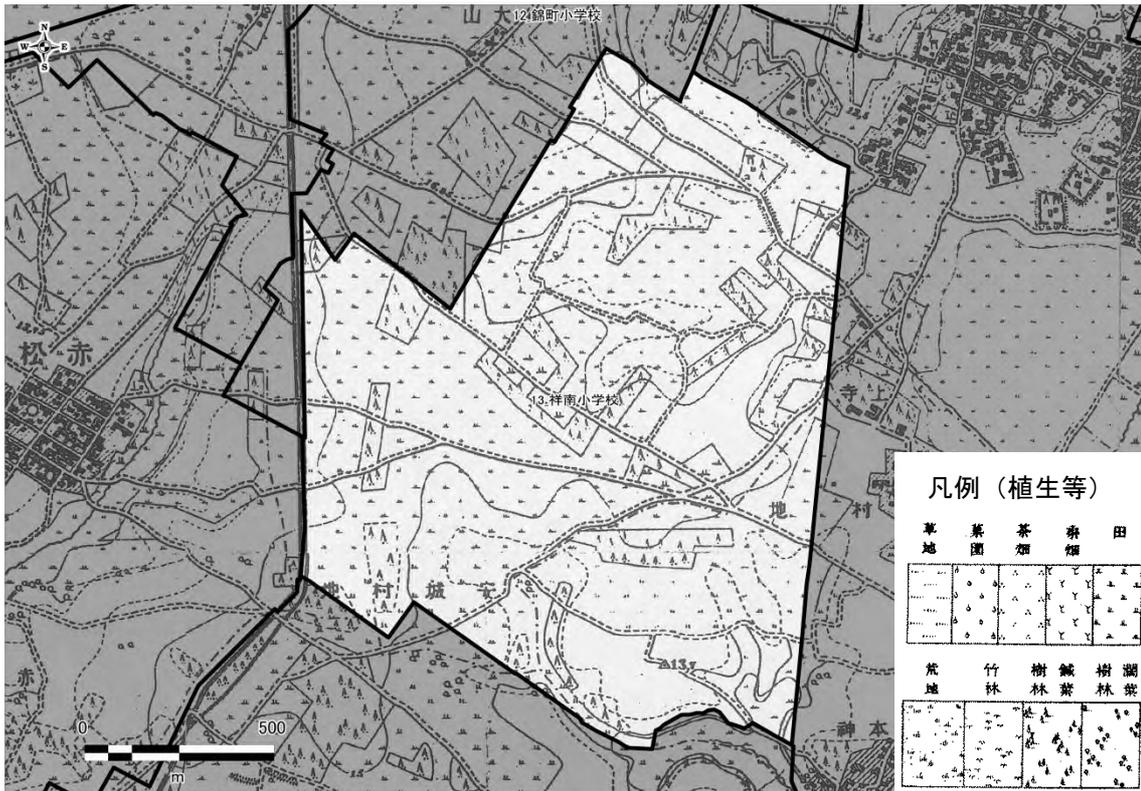
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

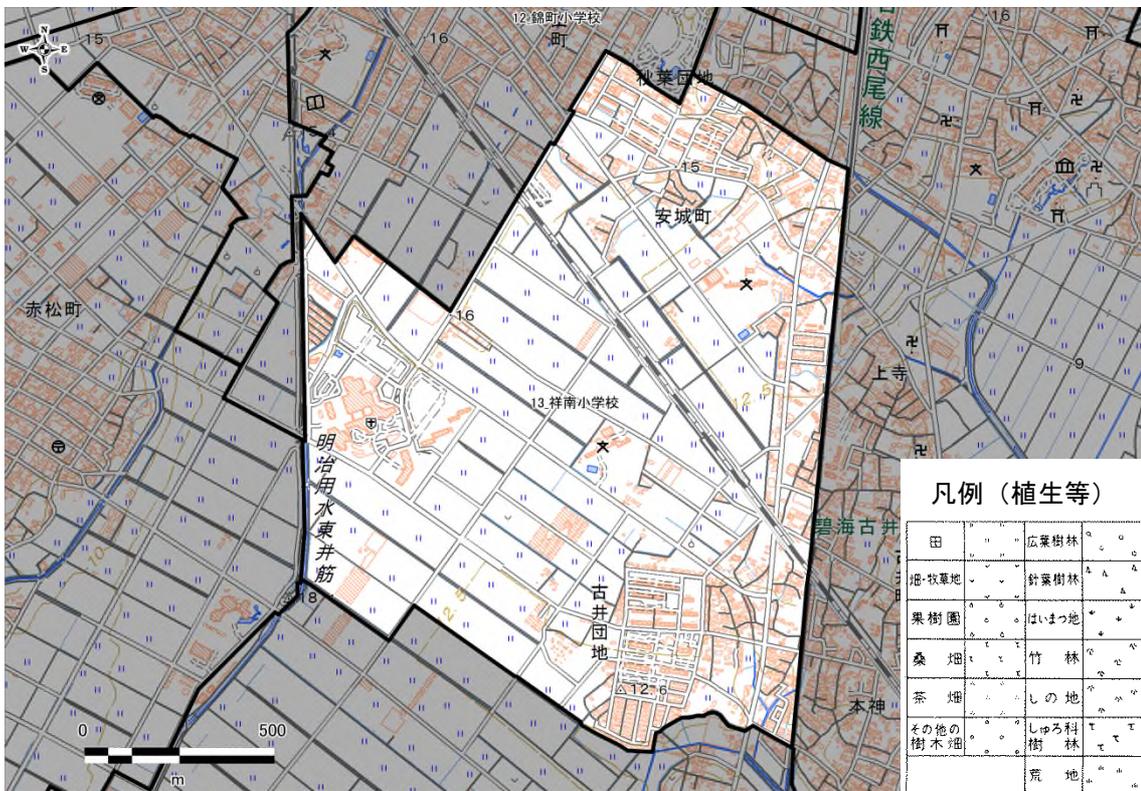
目 次

祥南小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	8
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

祥南小学校区のおかしと今



おかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形

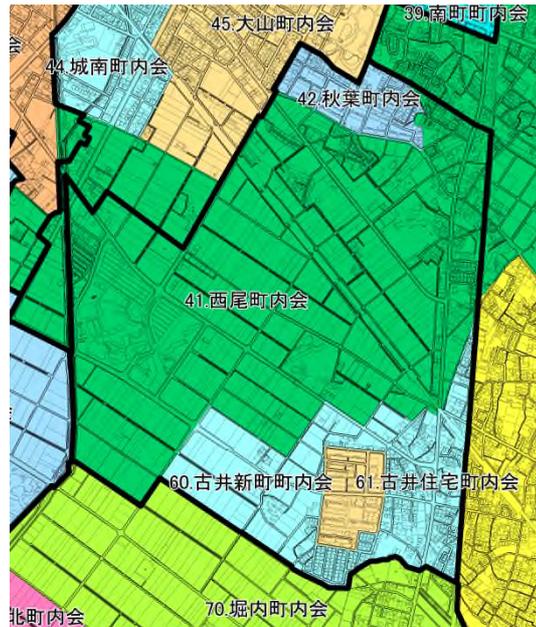


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 1.86km²
(安城市全体の 2.2%)



町内会区分図

2. 校区の構成

大山町〔1丁目8番地・9番地〕、安城町〔天草東・亀山・庚申・秋葉西・天草・祥南・広岸・東広畔・馬池(市道馬池社口堂線以南)・大山・亀山下(名鉄西尾線以西)・栗ノ木・甲山寺(名鉄西尾線以西)・社口堂(市道馬池社口堂線以南及び名鉄西尾線以西)・若葉・広美(市道広美庚申線以南及び同町広美145番以東)〕、古井町〔揚り登・一本木・大堀・北畔・甲加勢・小仏・五徳山・南揚り登・南畔・山崎根・北芝崎・大久後(名鉄西尾線以西)・芝崎(名鉄西尾線以西)・新道(名鉄西尾線以西)・花田(名鉄西尾線以西)・松山(名鉄西尾線以西)・堂前田(名鉄西尾線以西)〕

3. 校区の概要

【位置】 祥南小学校区は、中心市街地よりもやや南側に位置する。

【土地】 標高は比較的高く平地が広がっている。

【土地利用】 台地部を宅地とし、やや標高が低い平地部は田畑として利用している。

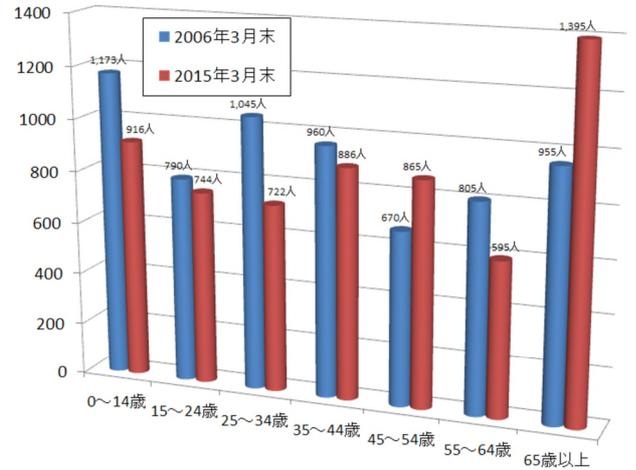
【交通】 校区東部に名鉄西尾線が通っており、おおむね安城南部小学校区との境となっている。
また、校区内を東海道新幹線が横断している。

【その他】 町内会は、秋葉町内会、西尾町内会、古井新町町内会、古井住宅町内会

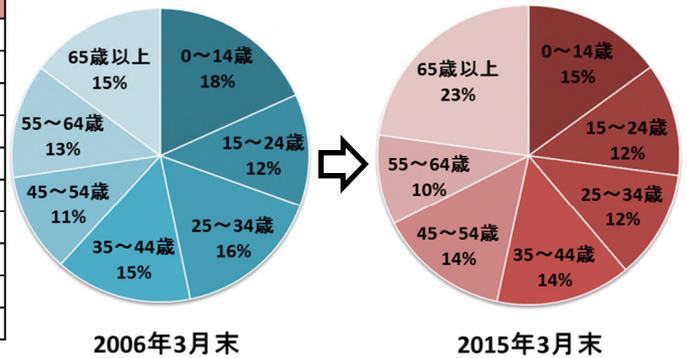
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は減少している。ただし、65歳以上の高齢人口比率は増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,173人	18%
15～24歳	790人	12%
25～34歳	1,045人	16%
35～44歳	960人	15%
45～54歳	670人	11%
55～64歳	805人	13%
65歳以上	955人	15%
人口(合計)	6,398人	100%
人口密度	3,440人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	2,331世帯 (対全市 3.8%)	

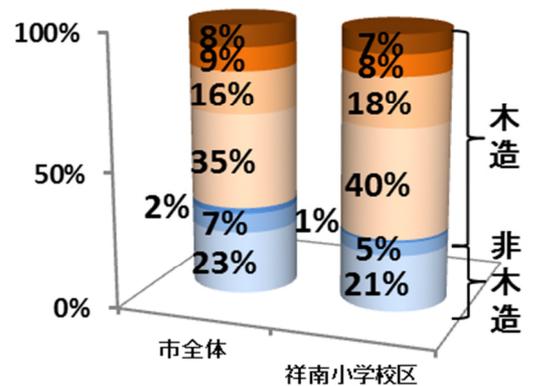


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	916人	15%
15～24歳	744人	12%
25～34歳	722人	12%
35～44歳	886人	14%
45～54歳	865人	14%
55～64歳	595人	10%
65歳以上	1,395人	23%
人口(合計)	6,123人	100%
人口密度	3,292人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	2,439世帯 (対全市 3.5%)	



【建物棟数】(2011年12月)

建物棟数(2011年12月)		校区内での比率
木造	昭和36年以前	105棟 7%
	昭和37～46年	118棟 8%
	昭和47～56年	279棟 18%
	昭和57年以後	610棟 40%
非木造	昭和46年以前	14棟 1%
	昭和47～56年	74棟 5%
	昭和57年以後	334棟 21%
建物棟数(合計)		1,534棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区/全市)		校区: 825 / 全市: 699(棟/km ²)

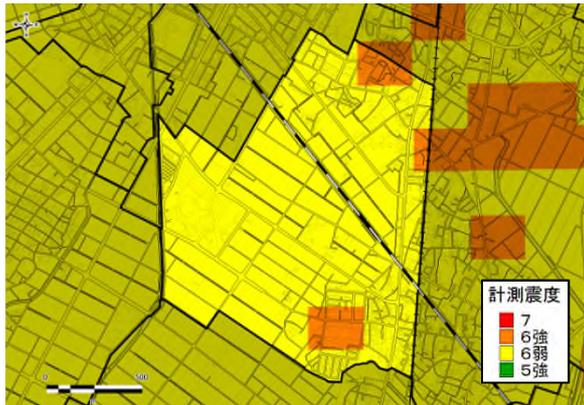


4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

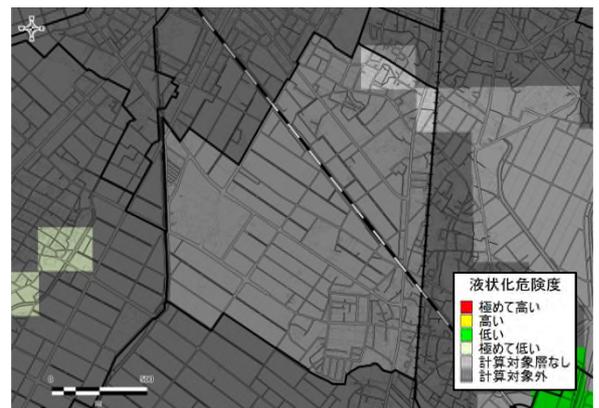
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

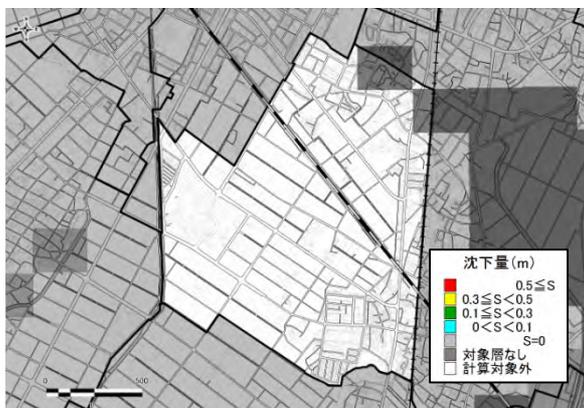
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



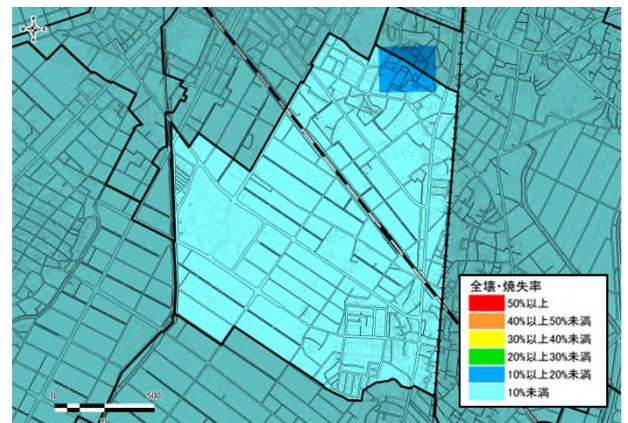
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



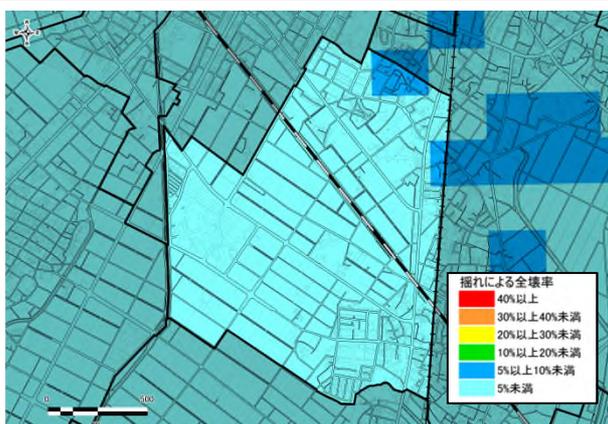
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

祥南小学校区は、震度 6 弱から一部震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強ははわないと動くことができないほどの非常に強い揺れである。したがって、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

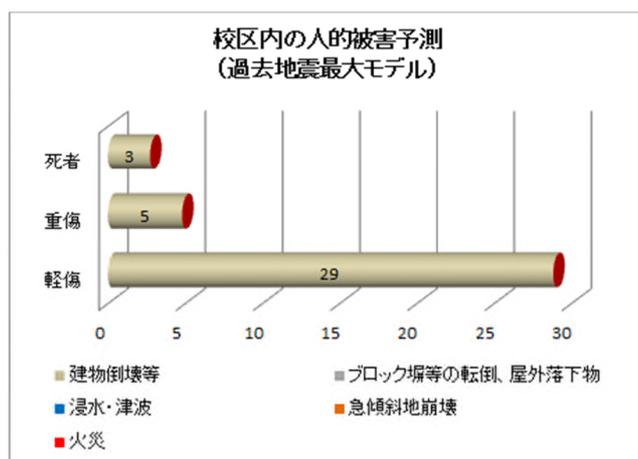
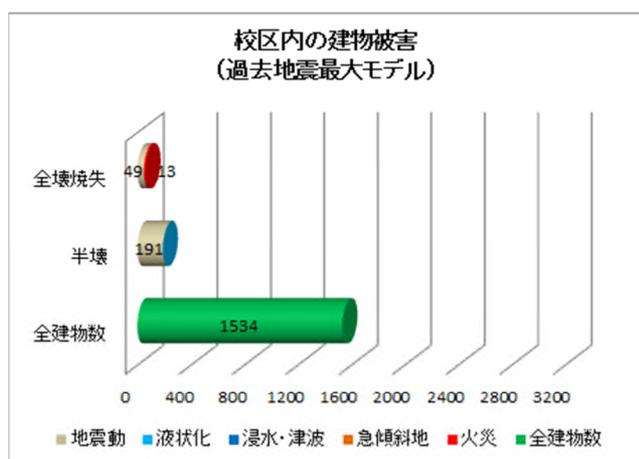
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数1,534棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	49	191
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	13	—
建物被害総数	62(4.0%)	191(12.5%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口6,111人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	3	5	29
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(1)	(4)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	3(0.05%)	5(0.08%)	29(0.47%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
祥南小学校区	352	211	141	979	490	490	352	106	247
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

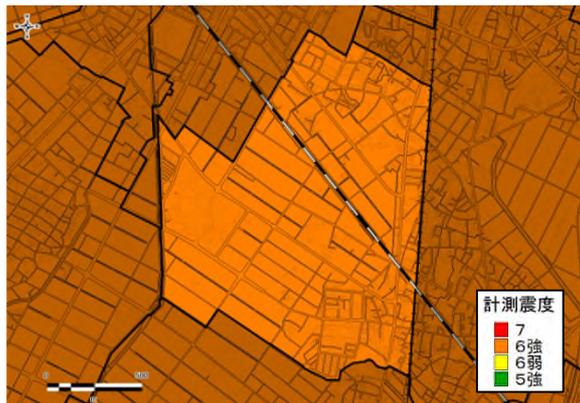
※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

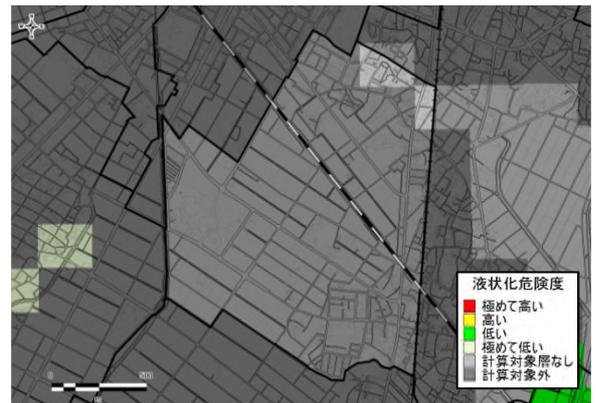
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

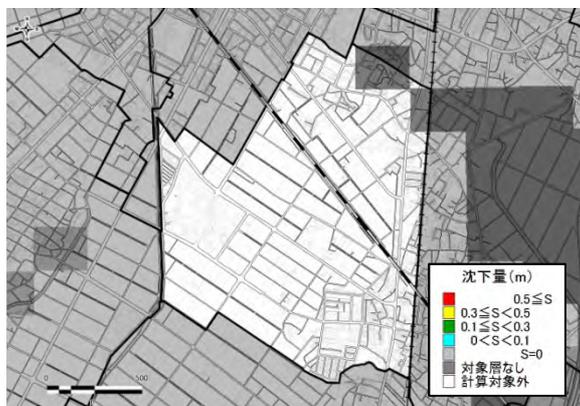
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



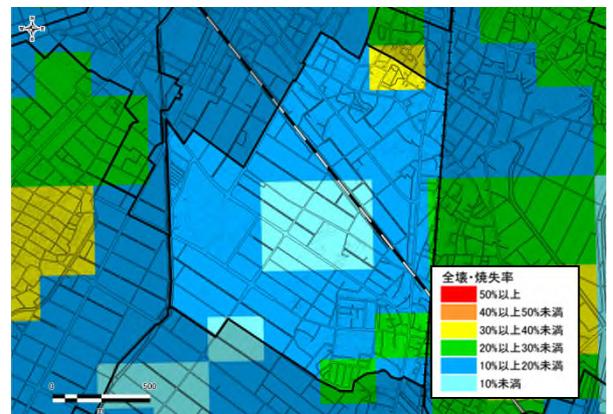
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



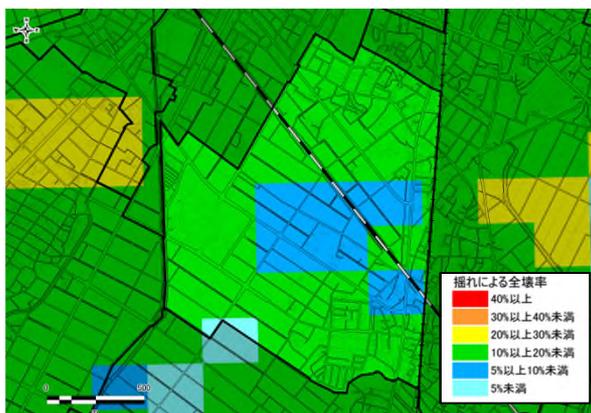
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



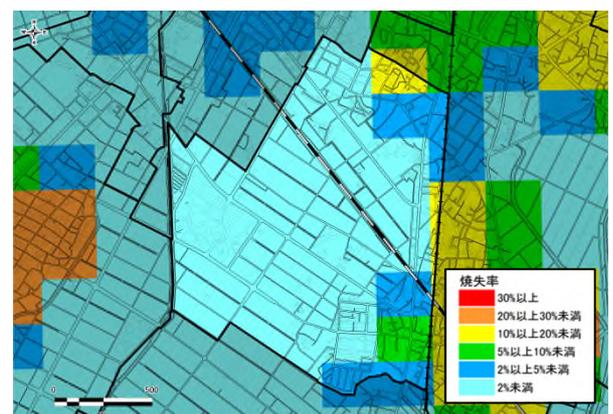
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

祥南小学校区は、震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

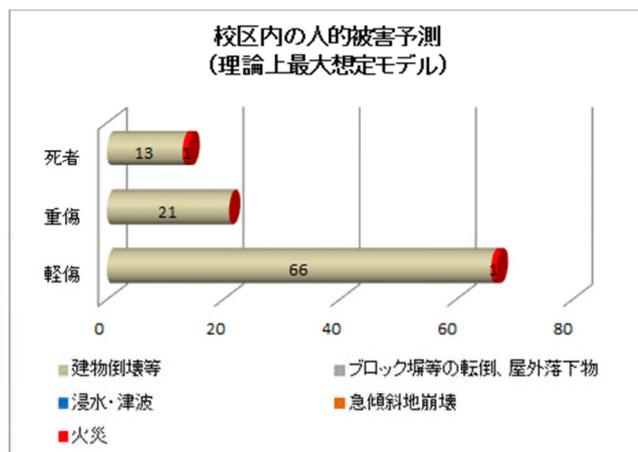
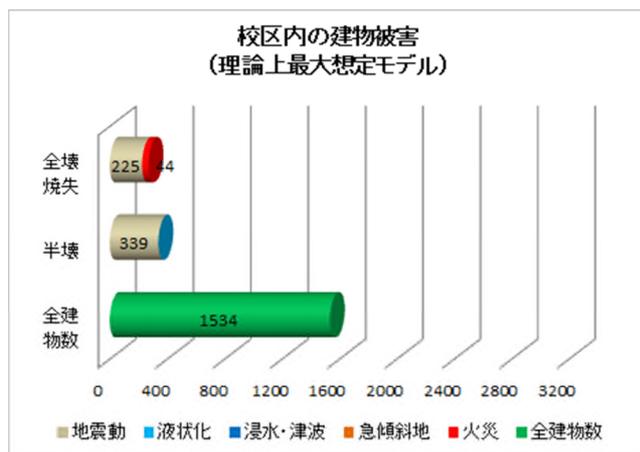
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数1,534棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	225	339
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	44	—
建物被害総数	270(17.6%)	339(22.1%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口6,111人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	13	21	66
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(4)	(18)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	1	*	1
被害者数合計	14(0.23%)	22(0.36%)	67(1.09%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	安城更生病院
消防署	—
消防団	—
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	安城更生病院
自主防災組織数	4
防災倉庫	祥南小学校、安祥中学校
応急給水施設	祥南小学校、安祥中学校
井戸	—
マンホールトイレ	安祥中学校
学校	祥南小学校、安祥中学校
保育園	—
幼稚園	—
公民館・福祉センター	—

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

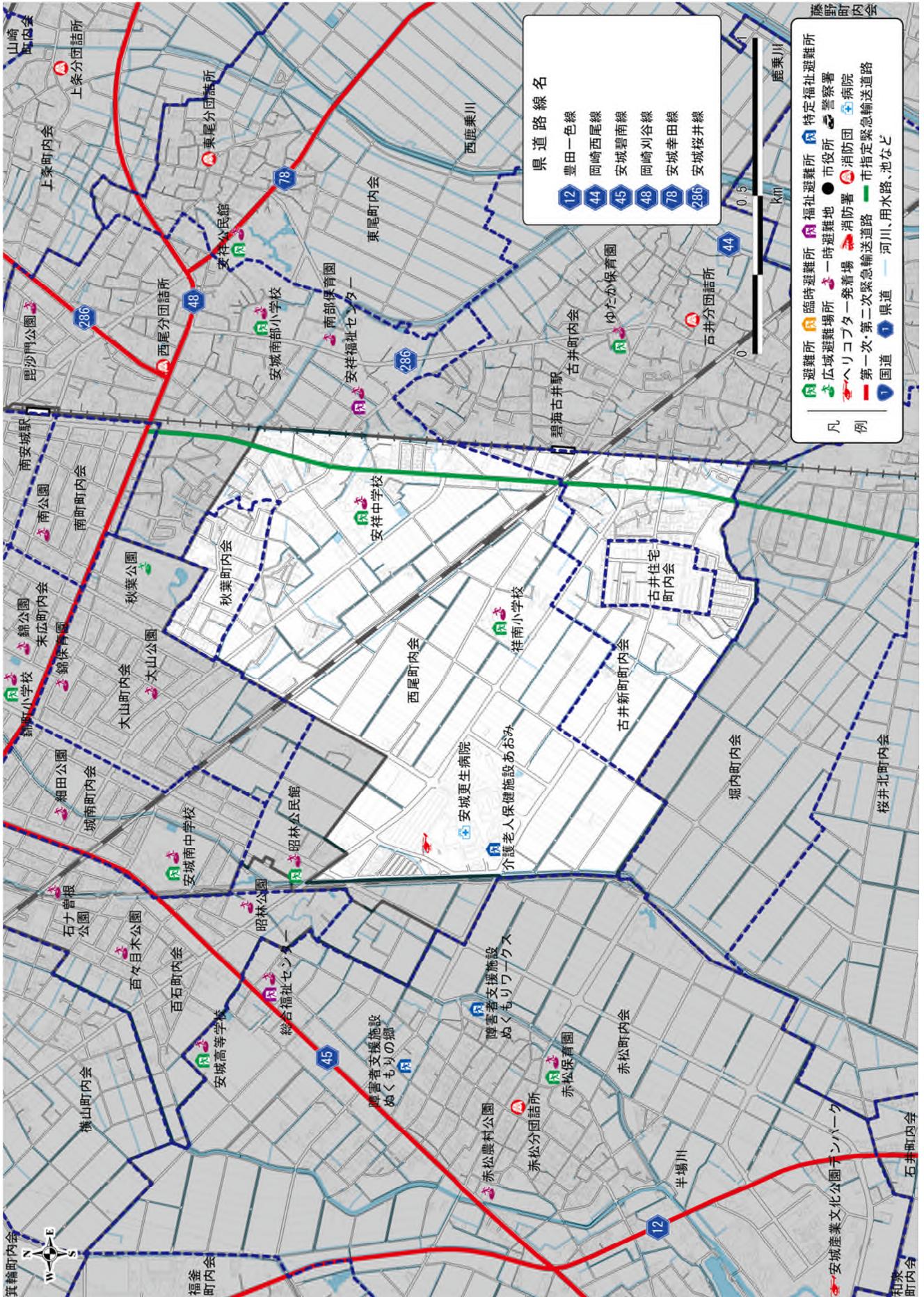
避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	祥南小学校	76-8773	安城町庚申 11	270
安祥中学校	76-7811	安城町天草 23	800		
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉特定※	介護老人保健施設 あおみ	75-8460	安城町東広畔 28	—
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[m ²]
	一時	祥南小学校		安城町庚申 11	6,700
		安祥中学校		安城町天草 23	10,000

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- ・昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 17%、理論上最大想定モデルで約 40%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 8 人、理論上最大想定モデルで 34 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- ・木造住宅の割合が多く、火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 44 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**